

第1章 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画の概要

1.1 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画策定の背景

瑞穂町は、古くから日光街道、江戸街道等の街道が通り、狭山遺跡、阿豆佐味天神社、五輪様の柿の木など多くの歴史的資源や狭山丘陵や狭山池、残堀川などの豊かな自然環境資源、景観資源が分布しています。しかし、これらの施設や資源を有機的につなぐルートが十分整備されてないのが現状です。

水・緑と観光を繋ぐ回廊計画（以下「回廊計画」といいます。）は、狭山池上流部（現在の瑞穂斎場南側の町民農園周辺）や狭山神社周辺のカタクリ群生地、新たに建設する郷土資料館と狭山丘陵の自然環境資源を結びつけ、地域資源として互いに連携させるもので、来訪者の回遊性を高め、観光の振興を図るものです。

平成23（2011）年度からスタートした第4次瑞穂町長期総合計画（基本構想）の将来都市像を

みらいに ずっと ほこれるまち

潤いあふれ、活力みなぎる地域社会をめざして

としています。まちづくりの基本目標には、「魅力ある温かいみずほ」、「快適で美しいみずほ」を掲げ、活力とにぎわいを創出し、魅力ある地域社会を形成するとともに、町の財産である豊かな自然と魅力ある都市空間の調和により、見る人にやすらぎと潤いを与えることを目指しています。

これまでも「瑞穂町緑の基本計画」を策定し、施策展開を図ってきました。平地林や屋敷林の保全、道路の緑化、水辺環境の保全などの分野で成果を挙げてきました。また、「瑞穂町環境基本計画」に基づいて、花植え運動や残堀川の水質検査、水生生物の調査を行ってきました。

また、第4次瑞穂町長期総合計画の基本理念を「自立と協働」と決めました。これからのまちづくりは、町民や事業所、地域団体などと行政が、それぞれ自立し、対等な関係で役割と責任を分担し、情報を共有しながら、様々な人々がまちづくりに参画できるよう協働型社会の形成を図ることとしています。

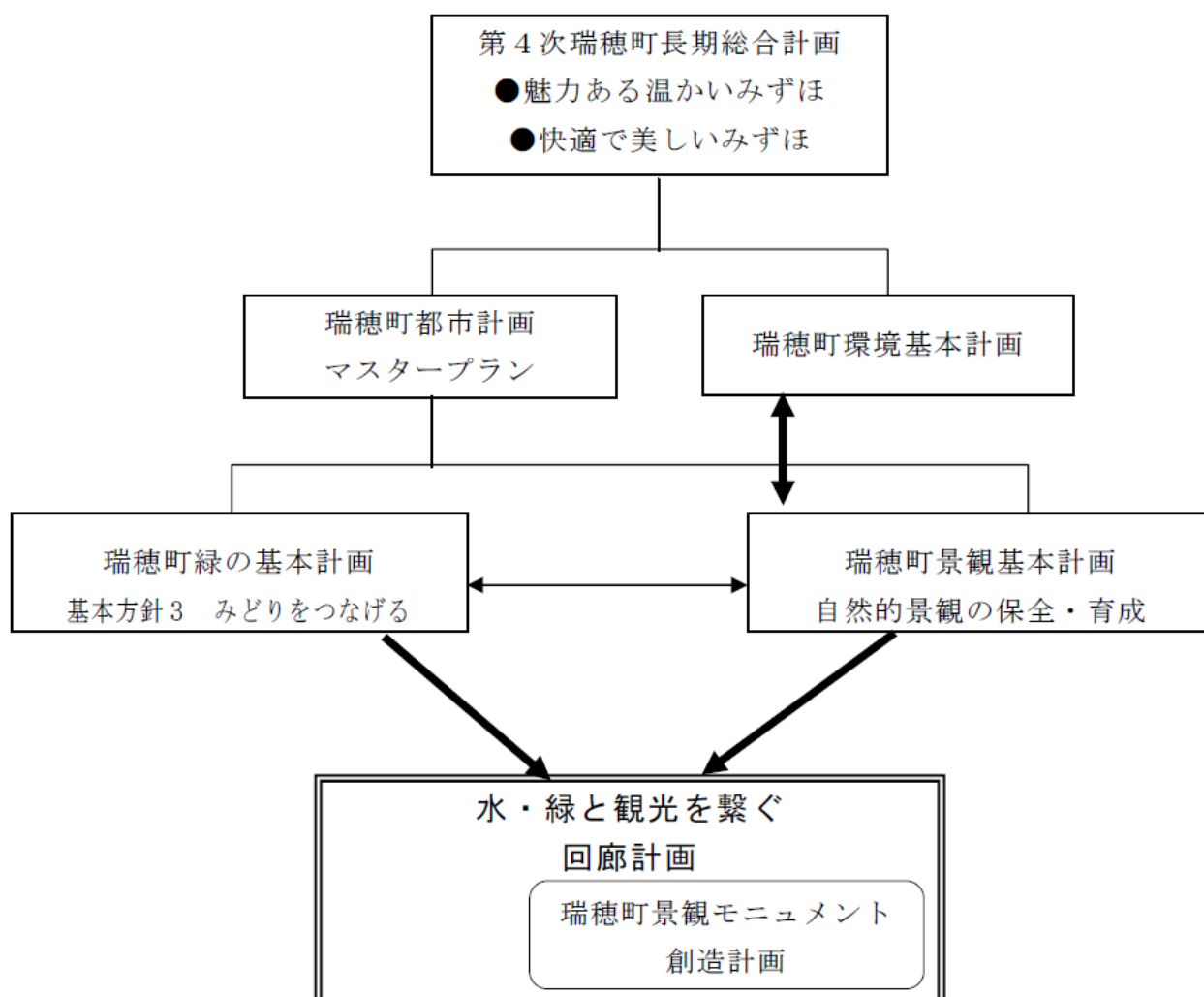
平成23（2011）年には東日本大震災が発生しました。水辺や緑地の空間などが地域交流の場や防災拠点としてより重要な役割を認識されてきています。

1.2 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画の位置付け

瑞穂町では、平成12（2000）年3月に策定した「瑞穂町都市計画マスタープラン」に基づき、町の長期的な都市づくりの基本方針として、土地利用や都市施設、市街化整備を図ってきました。また、平成11（1999）年3月に策定した「瑞穂町緑の基本計画」により、緑地の保全及び緑化の推進を図る施策を展開してきました。

回廊計画は、これらの計画の取組を踏まえ、第4次瑞穂町長期総合計画の将来都市像を具体化するための方針を「水」、「緑」そして「観光」という観点で構想するものです。

<体系図>



1.3 計画期間

この計画の目標年次は、第4次瑞穂町長期総合計画の目標年次と合わせ、平成32（2020）年度とします。

この目標年次は、長期総合計画の改定に合わせて、必要な見直しを行う目途を示すものであり、さらに長期的な視点に立って住民や事業者、地域団体などと行政が協働する必要があります。

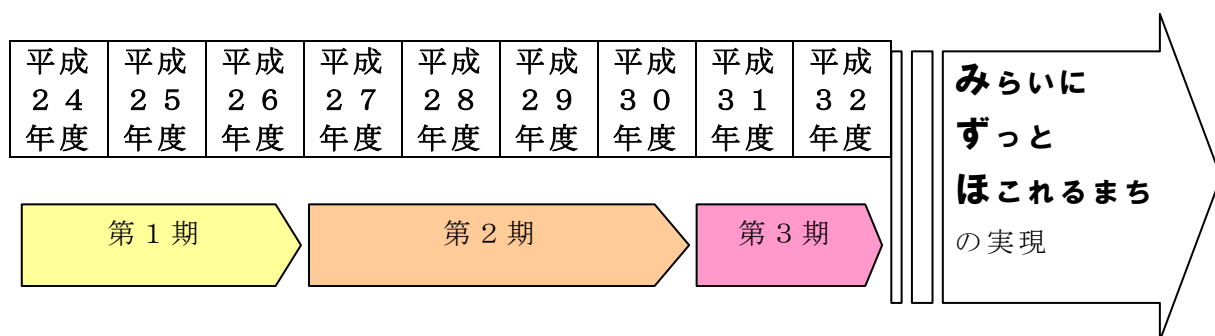


図1.3.1(1) 計画期間のイメージ

1.4 計画の基本理念

回廊計画を計画するに当たり、基本理念を以下とします。

町民一人ひとりが豊かな心と生きがいをもって、潤いのある快適な空間で、活力に満ちた生活を送ることができるよう、住民及び事業者、行政が協働して、水と緑の保全及び新たな人や物の交流を創出することに努めます。

そして、このまちに暮らす人々が自らのまちに誇りを感じながら、未来に引き継ぐことやまちを訪れる人々がこのまちに愛着を持てるように努めます。

このような考え方に立ち、「みらいに ずっと ほこれるまち」の実現に取り組みます。

1.5 回廊計画における瑞穂町の課題

(1) 緑の保全と創出

町民が愛し親しむ財産である狭山丘陵や狭山池周辺の希少な植物、水辺環境、農地を大切に守るとともに、新たな魅力ある自然空間を創出し、将来に引き継ぐことが必要です。

(2) 農と水辺環境の再生

古来、狭山池は水をたたえる広大な池であったといわれ、狭山丘陵の谷戸から流れ出る水が残堀川を形作ってきました。また、江戸時代の新田開発、昭和時代の土地改良事業に代表されるように農地が開発されてきました。

このような歴史を持ちながら、市街化の進行によって都市基盤整備が進み、利便性が向上した街並みが形成された一方で、湧水量の減少や不耕作地が増加しています。

今後は、農地の保全や水辺環境の再生に取り組み、これを観光資源や産業活性化の原動力と位置付けることが必要です。

(3) 水と緑の拠点をつなぐネットワークの形成

水と緑は、人の心に潤いを与えるとともに、人と人とのふれあいをつくる資源です。また、水や緑と人がかかわりあって、歴史や文化を形成してきました。

町の資源である水と緑を魅力ある地域づくりに最大限生かしていくために、水と緑の拠点づくりとこの拠点と多様な歴史・文化の地域資源を相互に結ぶルートの整備など、水と緑のネットワークを形成する取組を推進していく必要があります。

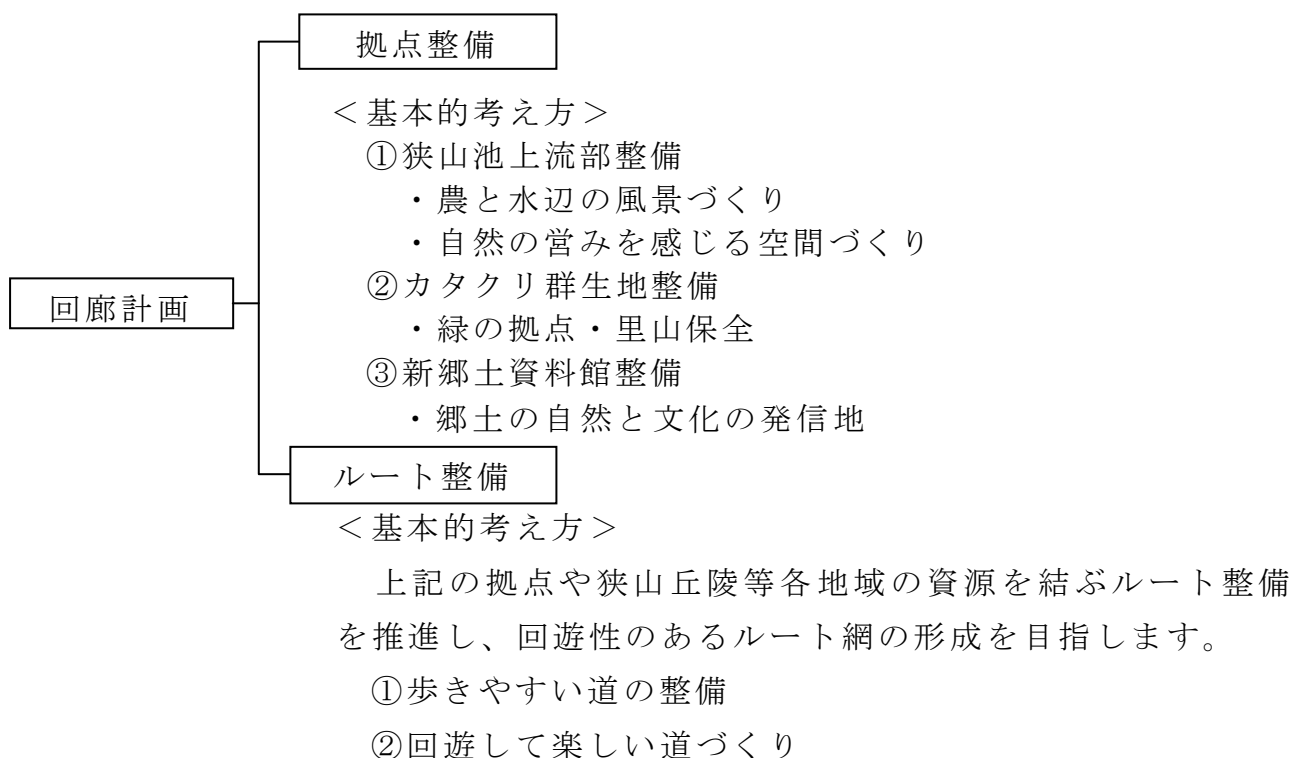
(4) 住民、事業者、行政がともに取り組むまちづくり

貴重な自然や歴史・文化を守り、水と緑を活用し、新たな人や物の交流を創出するためには、住民、事業者、行政が協働で取り組んでいくことが不可欠です。

また、住民参加による取組は、地域への愛着や誇りを育むことにもなり、安全で豊かな地域環境を形成するうえでも重要です。協働の視点にもとづき、住民、地域、企業などが行政との役割分担を行い、お互いが支え合う取組を推進する制度やしくみづくりを行う必要があります。

1.6 回廊計画の構成

回廊計画は、「拠点整備」と「ルート整備」の2つの柱で構成しています。



1.7 主な整備内容及びソフト施策

回廊計画で構想している主な整備内容及びソフト施策を以下に示します。

(1) 拠点整備

狭山池上流部整備……ビオトープ、植栽ゾーン、農作物販売所、駐車場等の設置

カタクリ群生地整備……遊歩道、園内案内板、あずまや、ベンチ等の設置

新郷土資料館整備……耕心館事業と調和した施設整備

(2) ルート整備

町内のルートを4ルート、町外へのルートを2ルート、サイクリングルート4ルートを設定します。

- ・サイン（案内標識、指示標識）の充実、強化
- ・小休止のための緑陰空間、ベンチやトイレの設置
- ・モニュメントの設置
- ・ルートマップの作成、イベント類の創出

(3) ソフト施策

地元の農家への農業イベントの講師依頼（JAなど団体との連携）

マップや冊子の作成（回廊ルート、自然環境、観光資源などのマップ）

ホームページ、ブログ、ツイッターなどを活用した観光情報の発信

水と緑の回廊スタンプラリーやウォーキングラリーの開催

①狭山池上流部：農と歴史・文化のゾーン

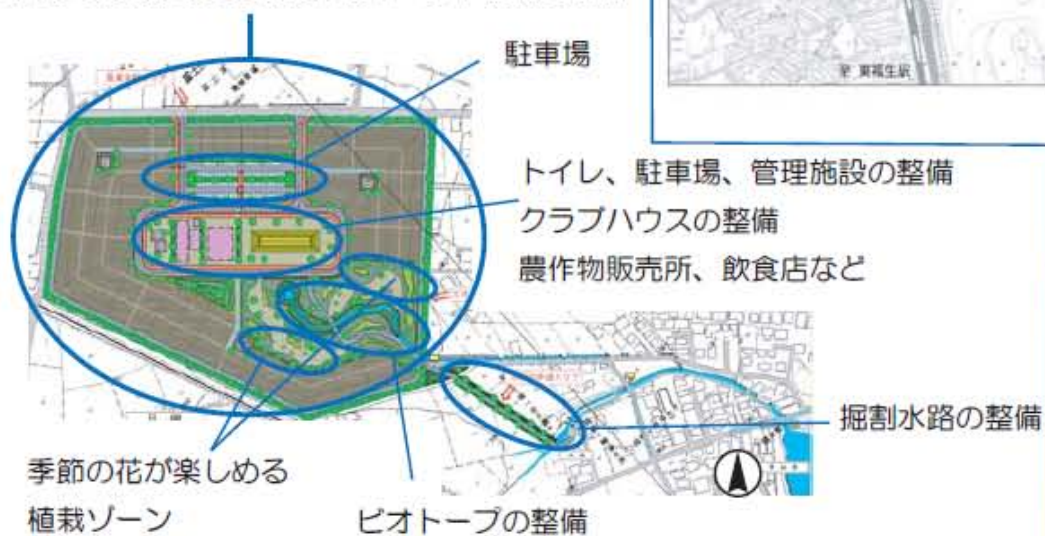
～基本的な考え方～

- ・農と水辺の風景づくり
- ・自然の営みを感じる空間づくり



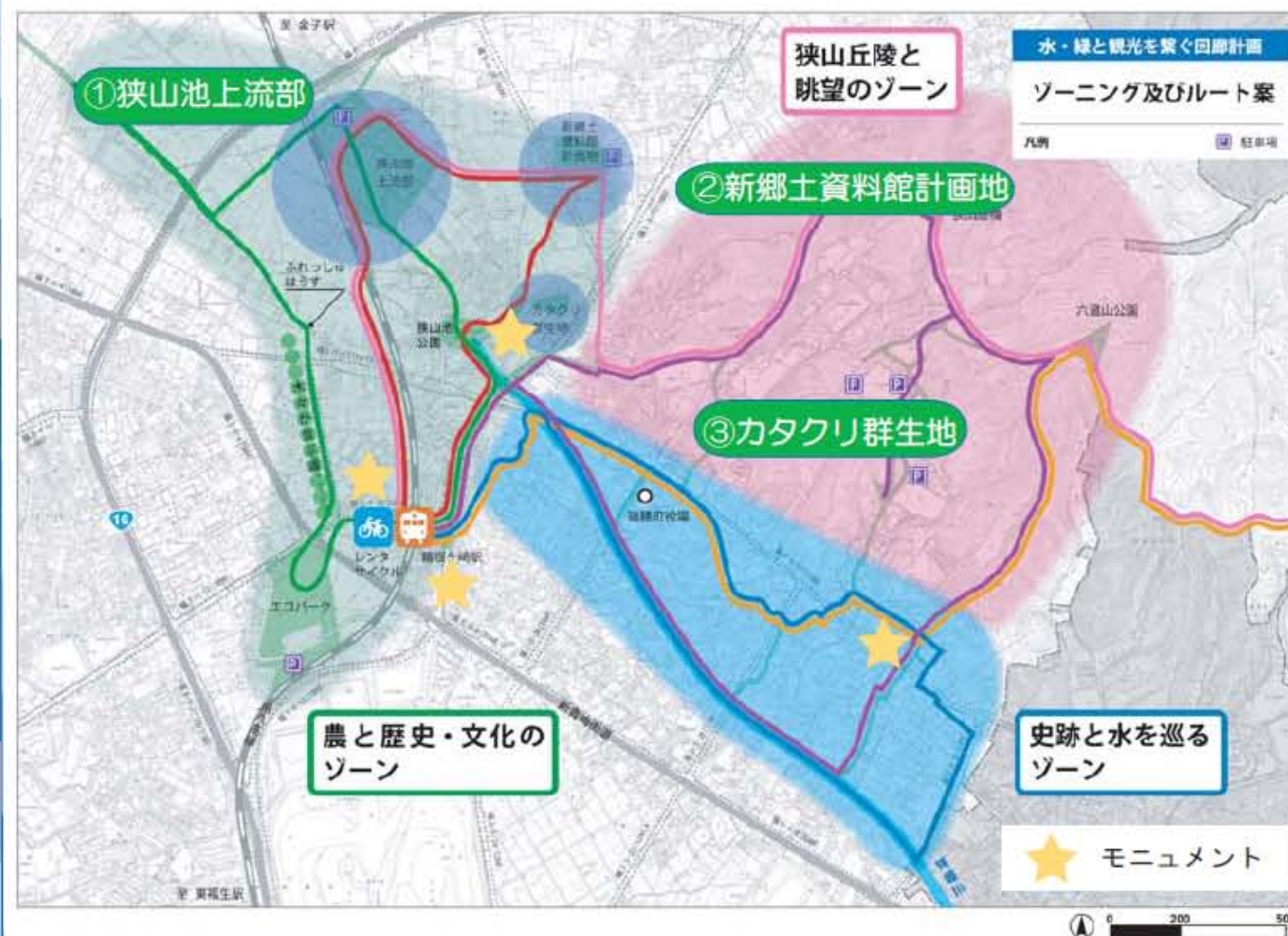
狭山池上流部農と水辺整備イメージ

町民農園の拡充と町外農園利用の受け入れ
町外から参加できる農業体験イベント拠点の整備



回廊ルート全域

- サインの充実
- モニュメントの設置



水・緑と観光を繋ぐ 回廊計画

拠点整備・ルート整備 箇所の
現状及び内容
～拠点整備～

②新郷土資料館計画地 農と歴史・文化のゾーン

～基本的な考え方～

郷土の自然と文化の発信地



新郷土資料館建設予定地

社会教育施設基本設計との整合
を図り、耕心館事業と調和した
施設整備

③カタクリ群生地：農と歴史・文化のゾーン

～基本的な考え方～

緑の拠点・里山保全



カタクリ群生地の状況

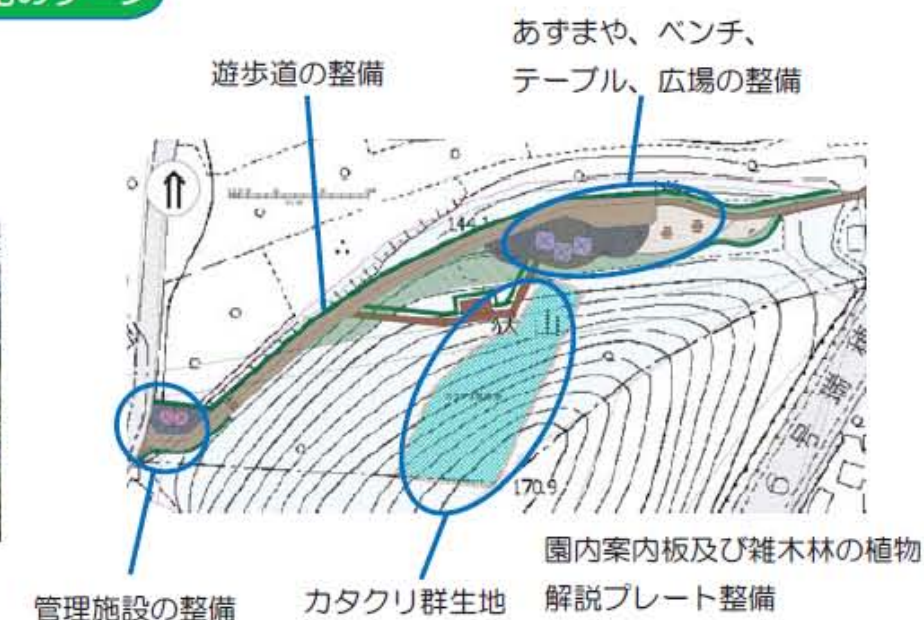


図1.7.1 (1) 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画の考え方と整備内容（拠点整備）

⑤町道（伊奈街道）
農と歴史・文化のゾーン



○カラー舗装で回廊ルートを示す



カラー
舗装の例

⑥シクラメン街道（岩蔵街道）
農と歴史・文化のゾーン



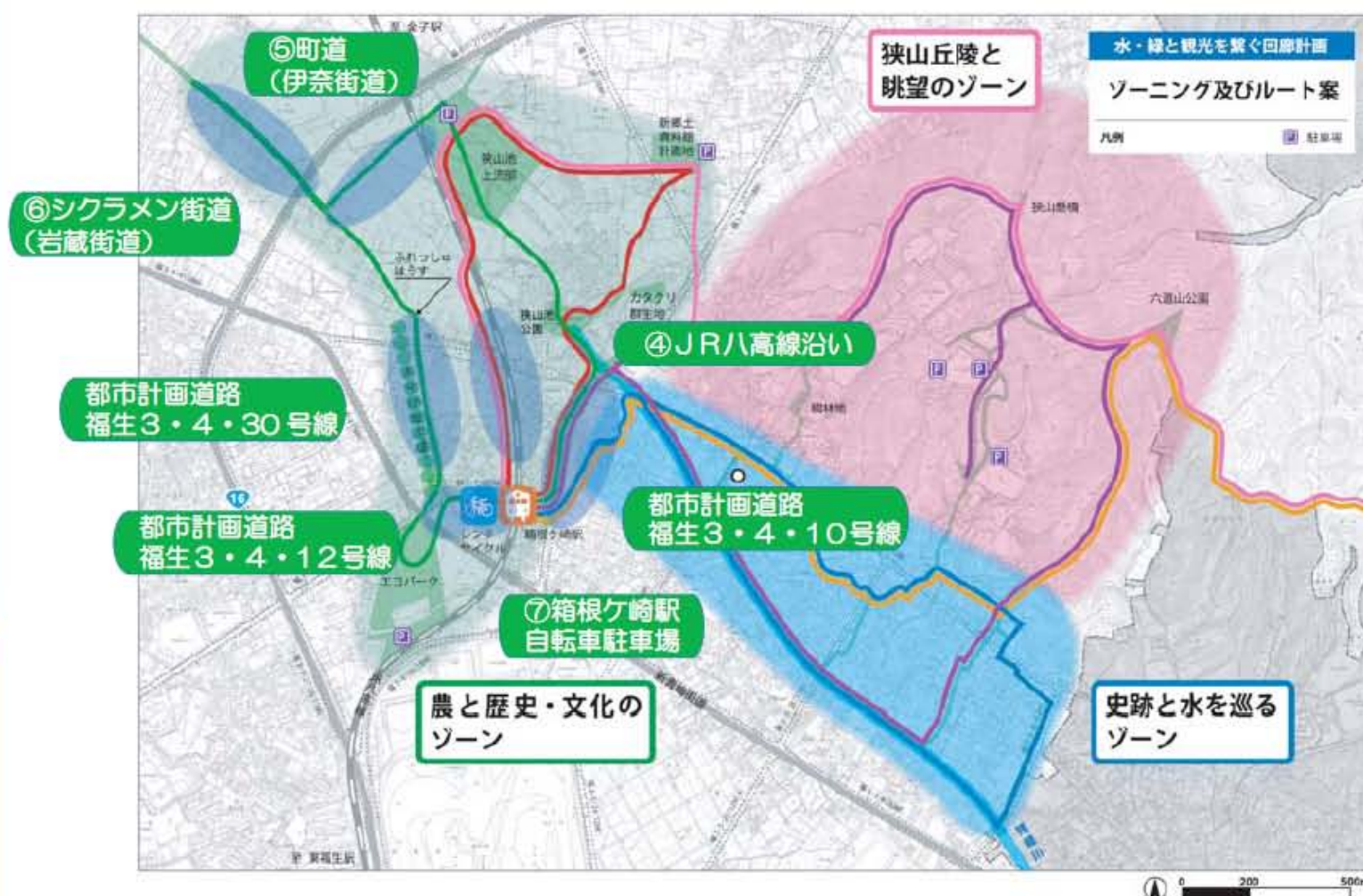
○標識の整備（サインの充実）

⑦箱根ヶ崎駅自転車等駐車場
農と歴史・文化のゾーン

○レンタサイクルポート整備



レンタサイクルの例



④JR 八高線沿い：
農と歴史・文化のゾーン



- 高木・低木を組み合わせた植栽
- 樹名板の整備
- ポケットパークやベンチの整備
- サインの設置
- 回廊を繋ぐ道路の新設

主要な幹線道路：
農と歴史・文化のゾーン



- 将来的に高木となる樹木を中心にした、統一感のある植栽
- 樹名板の設置（マイツリーの募集）
- サインの設置

水・緑と観光を繋ぐ
回廊計画

拠点整備・ルート整備 箇所の
現状及び内容
～ルート整備～

～基本的な考え方～
歩きやすい道の整備
回遊して楽しい道づくり

主なソフト施策

- 地元の農家への農業イベントの講師の依頼（JAなど団体との連携）
- マップや冊子の作成（回廊ルート、自然環境、観光資源などのマップ）
- ホームページ、ブログ、ツイッターなどを活用した観光情報の発信
- 水と緑の回廊スタンプラリーやウォークラリーの開催



ウォークラリーの例

図1.7.1 (2) 水・緑と観光を繋ぐ回廊計画の考え方と整備内容（ルート整備）

1.8 概算整備事業費の算出

狭山池上流部整備、カタクリ群生地及びルート整備の概算整備事業費に 28 億 7,264 万 7,000 円を見込みます。

内訳は、1.8.1(1)のとおりです。

表 1.8.1(1) 回廊計画全体整備事業費見込み

種 別	細 別	形状・規格	数 量	単位	金 額	摘 要
回廊整備						
	回廊整備	農と歴史・文化ゾーン	8835.0	m	958,287,000	
	回廊整備	史跡と水を巡るゾーン 狭山丘陵と眺望ゾーン	7575.0	m	843,593,000	
	サイン整備		1.0	式	41,040,000	
	モニュメント設置	農と歴史・文化ゾーン 史跡と水を巡るゾーン	1.0	式	50,000,000	計画期間中の 総額
拠点整備						
	狭山池上流整備		1.0	式	911,071,000	
	カタクリ群生地整備		1.0	式	68,656,000	
全工事費合計					2,872,647,000	

1.9 計画の推進

1.9.1 計画推進の基本姿勢

この計画は、第4次瑞穂町長期総合計画の将来都市像を具体化するための方針を「水」、「緑」そして「観光」という観点で構想し、その骨格を示すものです。この構想を推進するために、拠点整備や回廊ルート整備、ソフト事業の具体的な内容を住民、事業者と行政が協働して計画し、実行していきます。

(1) 実施計画の作成

拠点整備や回廊ルート整備のハード事業では、拠点の考え方や機能、デザイン、素材等の詳細な実施計画が必要となります。その作成に当たっては、住民や事業者、町を訪れる人々、町職員が意見を出し合う機会を設け、ニーズの的確な把握と協働作業を経ることとします。

例えば、狭山池上流拠点、カタクリ群生地、回廊ルート、サイン整備といった特定のテーマにより検討の場を設けることが考えられます。

(2) 事業の実施

ハード事業の実施は、財源の確保、国や東京都との交渉や連携が必要であり、行政の役割が大きくなります。

実施の段階においても住民や事業者に情報を提供し、実施計画の進捗状況を共有することとします。仮に計画の変更が必要となった時には、住民や事業者に分かりやすく説明することで、理解と協力を得るよう努めます。

(3) 維持管理

維持管理は、ハード事業中心からソフト事業中心に移行していきます。ここでは、住民や事業者、町を訪れる人々と行政の一体となった行動がより一層求められます。協働の取組みが活発に、そして、継続的に展開されるには、幅広い人々の自主的、能動的な参加が得られるような仕組みを構築します。

例えば、この計画の実施のために活動する組織の設置を促すとともに、協働の取組を推進する人材を発掘したり、町外から募集したりすることが考えられます。また、狭山池上流部やカタクリ群生地等の拠点で保全や育成の実践活動をする組織のモデル事業の展開を図ります。

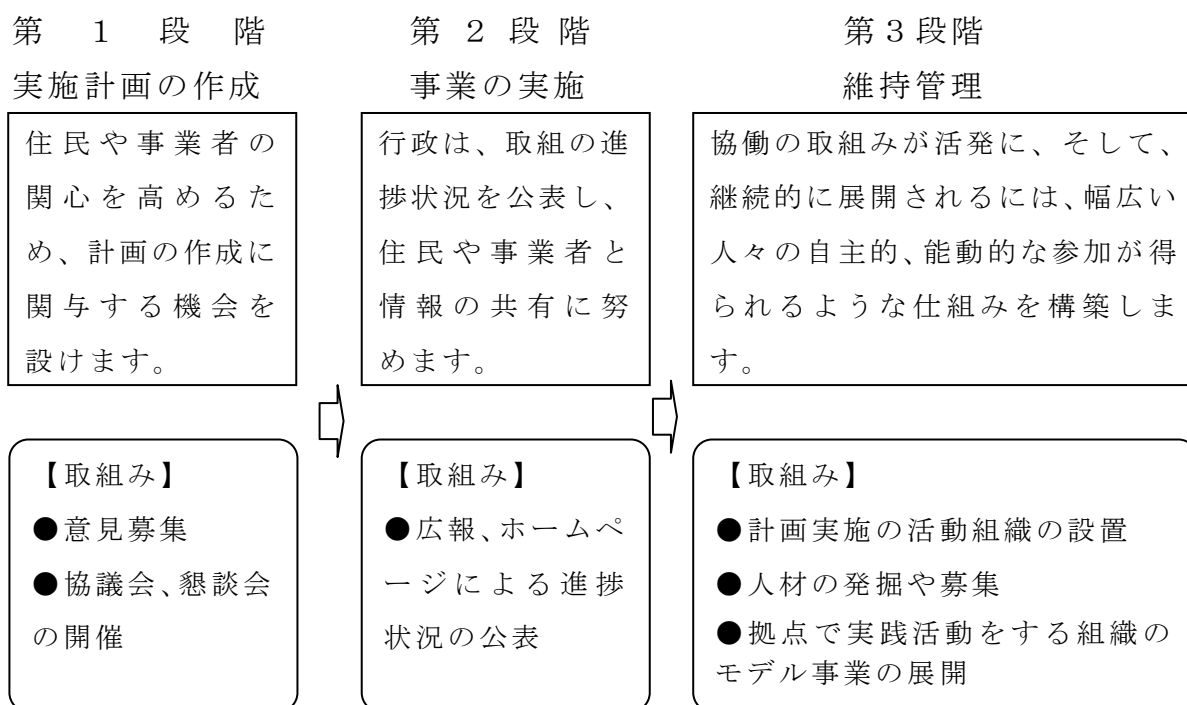


図 1.9.1(1) 計画推進の段階的なイメージ

1.9.2 計画推進組織

住民、事業者、行政それぞれの強みを生かした役割分担を踏まえて、計画実施のために活動する組織を構築します。住民や事業者、町を訪れる人々、町職員が意見を出し合う機会とするための協議会を設けます。

その下に狭山池上流拠点、カタクリ群生地、回廊ルート、サイン整備といった特定のテーマにより検討の場を設けることが考えられます。

計画の実施に携わる人々が統一した考え方によって計画を推進するため、それらのテーマ別部会を調整する組織を設けます。

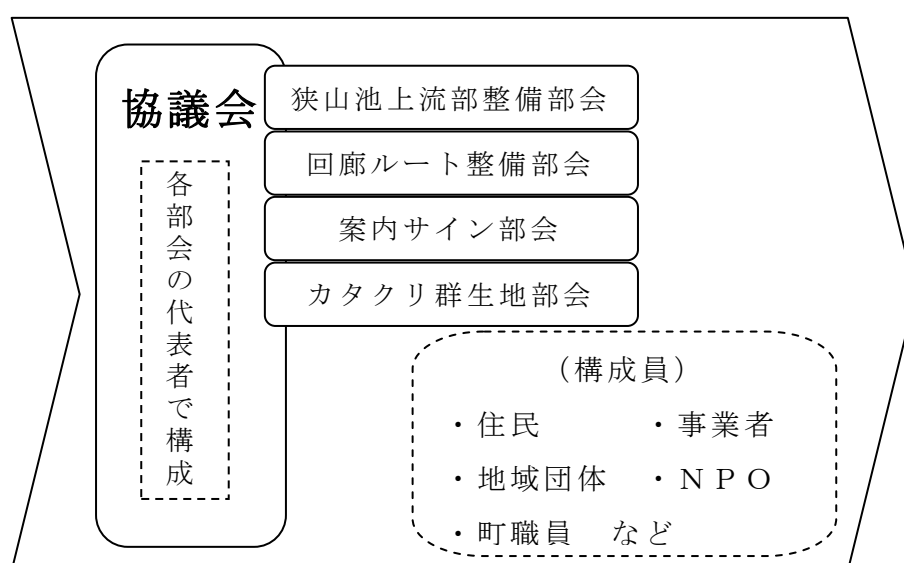


図 1.9.2(1) 計画推進組織のイメージ（名称は仮称）